

講演者・技術者紹介

～建設技術が創る安全・安心なまちづくり～

■建設業界の魅力

6月15日 午前11：00～11：30



三根 達也氏

佐賀土木事務所
街路公園課 主査

大学を卒業し、今年で入庁8年目になります。これまでに、東部土木事務所では吉野ヶ里歴史公園の事業を一部、まちづくり課公園担当では森林公園の事業や市町事業の支援・予算のとりまとめ等を担当し、そして現在は佐賀土木事務所にて佐賀城公園の事業を担当させていただいています。公園業務に多く携わらせていただいた経験から、当日の講演では、公園業務の事例を交えて、現在行っている業務の紹介や若手技術者として日々感じていることなどをお話できればと思います。

1990年生まれ。2015年九州大学大学院卒。2015年佐賀県庁入庁。東部土木事務所（3年）、まちづくり課（4年）での勤務を経て、現在、佐賀土木事務所にて街路及び公園事業を担当。



小野 盛一氏

東部土木事務所
工務第一課 工務第二担当
主任主査

大学を卒業して民間の建設業者で5年間働き、転職して県庁での勤務が11年目になります。民間業者では、大規模な公共事業に携わり、県庁でも道路・河川など様々な事業を経験させていただきました。これまでの経験で、実際に自分が感じたこと、発注者・受注者それぞれの目線での建設業界の魅力を伝えることができたと思います。また、転職により変化した私生活面など違った視点からもお話しできたらと思います。

1982年生まれ。2007年佐賀大学大学院卒。戸田建設㈱での5年間の勤務を経て、2012年に佐賀県庁に入庁。現在、東部土木事務所にて鳥栖・基山地区の道路・河川工事を担当。

6月16日 午前10：45～11：15



田中 陸人氏

唐津土木事務所
工務第一課 工務第一担当
技師

工事発注から監督員業務をはじめ、地元交渉や災害対応等、多岐にわたる土木系技術職員の仕事の中から、私自身が入庁後一年間で体験したことを紹介しながら、仕事のやりがいや建設業界の魅力についてお伝えします。これから就職を控えた学生の方への土木系技術職員の業務紹介が主な題材となりますが、先輩技術者の皆さまにも若手技術者の仕事内容・考え方の変化をお伝えできれば幸いです。

佐賀市出身。大阪大学大学院工学研究科博士前期課程修了。大学では土木情報学を専攻。2021年入庁。唐津土木事務所工務第一課に在籍し、主に河川の施設整備・維持管理を担当。1996年生まれ。



西村 仁志氏

伊万里土木事務所
工務課 工務第二担当
主任主査

大学時代に都市計画に興味を持ち、県庁技術職員として13年目になりました。この間、道路、河川、街路公園等、様々な分野の業務を経験してきました。その中で私は、現在置かれている技術職員の立場や公共事業としての予算の低迷下、インフラ需要を把握し、これから技術職員として求められる事は何なのか、どうあるべきかを考える事が重要であるという結論に至りました。この講演を通じて、皆さまのお役に立てればと思います。

多久市出身。九州工業大学工学部卒業。2010年佐賀県庁に総合土木として入庁し、佐賀土木事務所街路公園課へ配属、その後、唐津土木事務所、都市計画課への異動を経て、現在伊万里土木事務所工務課に在籍。

■将来展望と研究発表

佐賀大学大学院理工学研究科

6月15日
午後2：00～2：30

溝上 哲平氏

都市基盤工学コース

佐賀県六角川を対象とする解析ソフトウェアを用いた過去水害の再現、および解析結果を踏まえた治水対策の検討。



大屋 貴芸氏

建築環境デザインコース

3つの歴史的町並み景観を構成する伝統的な建物の特徴を、建物の画像を用いた機械学習で明らかにする試み。

学生研究
発表

■みんなのくらしを守るダム

～経験したことのない大雨に備える
佐賀県独自のダム運用～6月16日
午後2：00～2：30

三瀬 志帆美氏

佐賀県県土整備部
道路課 地方道担当 主査

全国的な水害の激甚化を踏まえ、佐賀県でも、事前放流など既存ダムを最大限活用し、洪水被害を軽減させるための取組が必要となっています。事前放流を効果的に行うには、正確な流入量予測や、必要な洪水調節容量を速やかに確保するための大規模放流設備等が必要です。しかし、佐賀県管理ダムは、小規模で流入量予測が難しいうえに、大規模放流設備がないダムがほとんどでした。そこで、出水期間中、常に1m程度貯

水位を低下させておく『期別の貯水位低下運用』を行うこととしました。予め貯水位を低下させておくことから、小規模放流設備でも実施可能な操作であるとともに、予測困難な降雨においても効果が期待されます。昨年の8月豪雨では、全13ダムの内3ダムで洪水調節容量を使い切る事態が予測されましたが、運用の効果もあり、結果的に回避することができました。

経験したことのない大雨からも、命とくらしを守るため、佐賀県管理ダムが行っている取組について紹介します。

1988年生まれ。2005年佐賀県立佐賀工業高等学校建築科卒。建設会社、測量会社での勤務を経て2009年佐賀県庁入庁。2018年から城原川ダム等対策室で県営ダムの管理を担当。主に、予算管理や洪水対応、ダムの運用検討等を行った。2021年より道路課の地方道担当勤務。

技術者
発表